

# 外国語活動、外国語（英語）

## 言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する授業づくり

### 授業づくりのポイント

※数字は指導と評価の例と対応

- ① 単元を通して身に付けさせたい資質・能力と、目標を達成した児童生徒の姿を明確にし、言語活動を単元の学習過程に適切に位置付けて指導と評価の計画を作成する。
- ② 言語活動を行う際は、児童生徒にコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識させ、児童生徒自身が伝え合う内容や伝え方、使用する語句や表現について思考・判断できるようにする。
- ③ 英語使用の正確さや表現内容の適切さに着目しながら学習状況を把握し、必要な指導を行うとともに、改善に向けた方向性を示した上で再度言語活動に取り組めるようにする。
- ④ 実際のコミュニケーションにおいて既習表現を活用する場を繰り返し設定することにより、コミュニケーションの楽しさや、既習表現が役に立つことを実感できるようにする。

### 「話すこと【やり取り】」の言語活動を中心とした単元の指導と評価の例

中学校第1学年 単元名「Let's Act Locally ～地域に貢献できることを伝えよう～」

◇自校の学習到達目標〔CAN-DO形式〕「話すこと【やり取り】」GRADE 2

関心のある事柄について、簡単な語句を用いて、即興で情報や意見を交換することができる。

◇単元の目標（「話すこと【やり取り】」イ）

ALTに地域のことを詳しく理解してもらうために、前単元で伝えた「地域の魅力」に加え、地域の課題や地域貢献に関する考えを、既習の語句等を活用しながら口頭で伝えることができる。

◇評価規準（一部）

ALTとの意見交換において、地域の課題の解決に向けて自分ができることや取り組みたいことについて具体的に伝えたり、質問に答えたりしている。【思考・判断・表現】（活動の観察）

◇単元終末（8/9時間）の言語活動（記録に残す評価を行う場面）

地域の課題を踏まえ、自分ができることや取り組みたいことについて、一人一人がメモやマッピングを基にALTと意見交換を行う。

#### 単元終末の言語活動（ALTとの意見交換）において目指す生徒の姿

ALT: What do you want to do for our town?

S: I want to help old people in winter.

ALT: Nice. Tell me more about it.

S: Yes. We need to shovel snow every day. But some old people can't do it. So, I want to visit and help them.

ALT: That's a great idea. When can you do that?

S: During winter vacation.



単元の目標は、自校の学習到達目標に基づき、前単元までの学習内容を踏まえて設定します。  
また、単元終末の活動で生徒に期待する対話や発表を文章化するなど、単元を通して目指す姿を明確にしておくことが指導と評価の充実につながります。①

#### 単元（全9時間）における言語活動の計画（一部）

記=記録に残す評価

時	話題	評価の観点、見取る際の視点等
3	「紹介したい地域の魅力」	【知】語句等の正確さ（want to+動詞）
4	「地域の魅力と課題」	【知】語句等の正確さ（need to+動詞）
6	「地域のためにできること」	【知】語句等の正確さ（単元の既習表現）
7	「地域の課題と地域貢献」	【思】【態】目的等に応じた内容の適切さ
8	「地域の課題と地域貢献」	記【思】【態】目的等に応じた内容の適切さ

単元を構想する際は、終末の活動につながる言語活動を複数回設定し、生徒が終末までに語句等に十分に慣れ親しんだり、伝える内容を構築したりすることができるようにします。②④

言語活動において、生徒の発話から学習状況を把握し、評価する際は、事前に見取りの視点や、正確さ、適切さの基準等を明確にしておくことが大切です。③

#### 既習表現を正しく使用できていない生徒への指導の場面（6/9時間）

S1: What do you want to do for our town?

S2: We shovel snow in winter. I want to old people help.



S2さんの考えを正しく伝えるにはどうすればよいでしょうか。地域の課題を伝え合ったときに使った表現やその使い方を思い出してみましょう。

need to を使って need to shovel snow in winter と言ってはどうですか。

want to の後には動詞がきます。 want to help と言えばいいな。

Nice advice! need to や want to を正しく使うとよいですね。文と文をつなぐ and や so も役立ちそうです。では、need to や want to を活用してもう一度伝え合ってみましょう。S2さん、Can you try again?

Yes. We need to shovel snow in winter. So, I want to help old people.

「努力を要する」状況と判断される生徒には、活動途中で検討・修正する場を設けるなどし、確実に指導を行う必要があります。前時までの言語活動を想起させたり、ねらいに沿った望ましい会話例を共有したりして、既習表現を正しく使用するよう促します。その際、何をどのように改善すればよいかを生徒が理解できるようにすることが大切です。⑤